

平成22年度学校関係者アンケート結果についての考察一覧

評価項目		低学年	高学年	保護者
教育目標・教育計画	質問項目	(1)	(1)	(1)
	肯定的評価	96.1%	81.8%	96.9%
	考察	学校が楽しいと、ほとんどの児童がとらえている。	18%の児童が否定的評価である。学習面・交友関係等学校での児童の様子をより観察することが必要である。	子どもが楽しく学校に通っていると、ほとんどの保護者はとらえている。
教科指導	質問項目	(2)(3)(4)(5)(6)	(2)(3)(4)(5)(6)	(2)(5)(7)
	肯定的評価	88.3%	83.3%	91.0%
	考察	99%の児童に好きな授業がある。授業中に考えたり話し合ったりすることを90%以上の児童が肯定的だが、「発表する」や「先生に質問する」項目が低いといえる。教室内で積極的に発表したり質問したりできる環境を整えることが必要である。	97%の児童に好きな授業がある。しかし、「考える」「発表する」「先生に質問する」など全般的に低学年より肯定的評価が低い。教室内で積極的に発表したり質問したりできる環境を整えることが必要である。	日頃の授業が、ある程度信頼を受けている。しかし、10人に1人は授業が理解できていないので、指導方法の工夫が必要である。「あゆみ」についての見直しも今後必要である。
道徳・特別活動	質問項目	(13)	(13)(14)(15)	(4)
	肯定的評価	93.1%	89.4%	97.4%
	考察	90%以上の児童があいさつができていますが、強い肯定が73%なので、当たり前のようにあいさつができるよう引き続き指導していくことが重要である。	あいさつについて、強い肯定が57.6%なので、当たり前のようにあいさつができるよう引き続き指導していくことが重要。委員会活動を自発的に取り組める工夫が必要である。	道徳教育、規範意識の育成の取組成果が現れている。
人権教育	質問項目	(7)(8)(10)(11)(12)	(7)(8)(10)(11)(12)	(3)
	肯定的評価	95.3%	88.4%	94.4%
	考察	仲間づくりの観点では良好な児童がほとんどである。また、教師の取り組みの姿勢も伝わっている。自尊感情や助け合いの心の育成が重要である。	92.5%の児童は学校で友達に会うのは楽しいと回答しているが、悩みを相談できる友達がいる児童は83.4%である。低学年からの継続した取組が必要である。教師の取り組みの姿勢も伝わっている。自尊感情や助け合いの心の育成が重要である。	人権教育の取組が、理解されている。
生徒指導	質問項目	(9)	(9)	(6)
	肯定的評価	78.6%	77.3%	92.9%
	考察	20%以上の児童が先生に相談しにくい状況がある。児童の話に耳を傾けるよう心がけることが重要である。	20%以上の児童が先生に相談しにくい状況がある。児童の話に耳を傾けるよう心がけることが重要である。	子どものことで学校へ相談しにくい保護者へのアプローチを検討する必要がある。
安全管理	質問項目	/		(8)
	肯定的評価			89.3%
	考察			約10%の保護者は登下校の安全について不安を感じている。
地域との連携	質問項目	/		(9)(10)(11)
	肯定的評価			83.6%
	考察			行事への参加、学校からの情報発信については、肯定的評価が高い。PTA活動については、年度途中からの立ち上げで参加が少ないのは当然と考えられる。